

急性膵炎（薬剤性膵炎）

英語名： Acute pancreatitis、Drug-induced pancreatitis



A. 患者の皆様へ

ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

膵臓きゅうせいすいえんに炎症を起こす急性膵炎は、抗てんかん薬、免疫抑制薬、抗原虫薬（トリコモナス症治療薬）などでみられるので、何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「急に胃のあたりがひどく痛む」、「吐き気」、「おう吐」がみられる。お腹の痛みはのけぞると強くなり、かがむと弱くなる。

1. 急性膵炎とは？

急性膵炎は、膵臓に炎症を起こす病気です。お腹の上の部分に強い痛みを生じ、悪心、おう吐を伴います。抗てんかん薬、免疫抑制薬、抗原虫薬（トリコモナス症治療薬）などの医薬品の服用やアルコール過剰摂取などによって起こることもあります。お腹の痛みはのけぞると強くなり、かがむと弱くなります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「急に胃のあたりがひどく痛む」、「吐き気」、「おう吐」がみられ、医薬品を服用している場合には、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。[\(http://www.info.pmda.go.jp/\)](http://www.info.pmda.go.jp/)

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。
(<http://www.pmda.go.jp/index.html>)